

# 令和4年度 上尾市立東小学校 学校評価書

★自己評価の評価基準 A：できている B：どちらかと言えばできている C：どちらかと言えばできていない D：できていない

★学校関係者評価の評価基準 ☆自己評価と同じ評価の場合 → 自己評価は妥当であると判断 ☆自己評価と異なる評価の場合 → 学校関係者評価委員会としての見方を示す

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 教育目標の具現化・円滑な学校運営	1	<p>■東小は、コロナ禍の中にあっても、学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組み、学校教育目標（元気あふれる東っ子の育成）や目指す学校像（信頼あふれる学校）の具現化に向かって、前進している。</p>	<p>◆安易な従前主義を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討や見直し、工夫に、熱意・誠意・創意をもって、真摯に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を徹底した上で、「できる工夫」を考えた教育活動の進化</li> <li>・学校における働き方改革の推進を踏まえた上での価値ある取組の精選、実施</li> </ul>	A	<p>○学校は、教職員のチームワークを生かし、コロナ禍であっても昨年度よりも、一歩前進できるような「できる方法」を常に模索してきた。ブラッシュアップし学習や行事により、教育目標の具現化を図った。</p> <p>○学校は、学校教育目標の具現化に向けて、児童の学習や生活の様子を学年やブロック、学校全体で情報を共有してきた。各分掌部会等では、児童の実態をもとに具体的な手立てを図れた。</p>	A	<p>○コロナ禍においても、着実に前進していた。運動会や音楽会での保護者観覧の実施や、水泳授業数の増など、工夫をしながら児童・保護者のことを考えて、対応を行っていた。</p> <p>○学校を訪問すると、すれ違う教職員の方々が元氣よく挨拶をしており、来校者が気持ちよく過ごすことができる。</p> <p>○電話に出る教職員の対応がよく、好感が持てる。</p>
	2	<p>■東小は、信頼の向上に努めるため、積極的にマナーアップの実践に取り組んでいる。</p>	<p>◆児童から信頼される教師となり、保護者から信頼される教育を行い、地域から信頼される学校を創ることを念頭に置き、常に自らの振る舞いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ、丁寧な言葉遣いの率先垂範</li> <li>・電話のさわやかな受け方の実践</li> <li>・何事にも誠意ある丁寧な対応</li> <li>・児童の心に寄り添い、温かい人間関係の構築</li> </ul>	A	<p>◆学校は、今後も、コロナ禍においても、「できる工夫」を検討しながら、学校教育目標の具現化に向けた教育活動を行っていく必要がある。</p>	A	
	3	<p>■東小は、教職員それぞれが能力を発揮し、各自の分掌（役割）や各学年が連携・協力して、質の高い学校づくりを目指す体制を構築している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を発揮して、組織力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践</li> <li>・毎日のグループウェアでの指示伝達・連絡事項の確認、情報共有、共通行動</li> <li>・深い学びを追求する教材研究</li> </ul>	A	<p>◆学校は、職員全体で協力し合い目標の達成に向けて、取り組んでいるが、さらに個別最適な学習を目指していく必要がある。</p>	A	
	4	<p>■東小は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る対応を適切に行っている。</p>	<p>◆国・県・市の方針に基づき、感染防止及び適正な教育課程の実施に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三密の回避、手洗いの励行、消毒の実施等による感染防止策の実施</li> <li>・新しい学校生活様式の指導</li> <li>・授業時数の確保と学力の保障の工夫</li> <li>・保護者等への情報提供</li> </ul>	A	<p>◆学校は、働き方改革をさらに推進し、時間外在校時間、月45時間以内、年間360時間以内の実現を目指していく必要がある。</p>	A	

領域				学校関係者評価			
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言		
II 学力を向上させる学習指導	5	<p>■東小は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行力の向上を図っている。</p>	<p>◆市委嘱研究準備期間の取組を推進するとともに現職職員研修の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究及び研究協議の実施</li> <li>・日々の業務に必要な研修の実施</li> <li>・グループウェアの記事をとおした自己研鑽</li> <li>・外部講師を招聘した研修の実施</li> </ul>	A	<p>○学校は、児童が分かると感じる授業を常に目指し、研鑽を重ねている。特に今年度は「英語活動・外国語活動・外国語」の授業に焦点をあて、全教職員で研究を進めることができた。</p> <p>○学校は「あげお学びのイノベーション」を推進し、ICT端末を積極的に利用し、効果的な活用方法の向上を図ることができた。</p>	A	<p>○教育課程の特例校として、1年生から英語教育を実施するなど、未来を見据えた教育環境である。</p> <p>○学校応援団の読み聞かせボランティアと連携を図りながら、児童が読書に親しめる環境を広げている。</p>
	6	<p>■東小は、教育課程や指導方法を工夫改善し、児童の主体的に学習に取り組む態度を高め、学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施、主体的・対話的で深い学びに通じる実践、基礎学力、学ぶための5つの力の育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントの実践</li> <li>・学力向上プランの策定と実行</li> <li>・自己有用感を得られる場づくり</li> <li>・一部教科担任制、コース別学習の実施</li> <li>・ユニバーサルデザインへの配慮</li> <li>・認めてほめて伸ばす教育の実践</li> </ul>	B	<p>○学校は、児童に読書を親しませる機会をつくるために、イベントを企画したり、図書館の環境を整えたりした。学校図書館の貸し出し数も増加しており、一人平均30冊の貸し出し数を超える見込である。</p> <p>◆学校は、英語活動や外国語活動外国語の学習において、児童が学びやすい学習過程をさらに整え、英語で自分の思いを伝え、進んでコミュニケーションを図る児童を育成していく必要がある。</p> <p>◆学校は、児童の興味や関心を高めるためにICT端末の活用に積極的取り組んでいるが、今後はさらに学習への苦手意識が高い児童が、自己有用感をもって学習に取り組めるように、授業改善を図っていく必要がある。</p>	B	
	7	<p>■東小は、コンピュータを活用する授業を推進し、充実させている。</p>	<p>◆「あげお 学びのイノベーション推進プラン」に基づく学習者用端末の活用を具体化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTを含むICT研修の推進</li> <li>・大型モニタ、児童用PCの活用推進</li> <li>・プログラミング教育の実践</li> <li>・「chromebook」の積極的な活用</li> <li>・「Google Workspace」のスキルアップ</li> </ul>	B			
	8	<p>■東小は、英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図れる児童が育つように、外国語教育を充実させている。</p>	<p>◆全担任が、ALTとのコミュニケーションを図り、LESSONプランを計画し授業を進行できるように実践を積む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTとのコミュニケーションや連携</li> <li>・LESSONプランに基づく授業の展開</li> <li>・ALTと児童のスマイルタイム等の実施</li> <li>・担任が主体となった授業の構成</li> </ul>	A			
	9	<p>■東小は、読書に親しむ児童が育つように読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ ・学校図書館の環境整備</li> <li>・図書貸出の促進 (一人2冊まで・週末読書の推奨)</li> <li>・アッピースマイル学校図書館支援員、学校応援団との連携</li> </ul>	A			

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅲ 豊かな人間性を育む教育（四つの心の育成）	10	<p>■東小は、あいさつをする心が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆年間の生活目標として、重点的に指導するとともに率先垂範する。</p> <p>◆校長からの合言葉「5つのしっかり」3内容6項目12の規律ある態度達成目標の取組を推進する。</p> <p>・実態把握 ・日々の指導 ・朝会等 ・保護者に協力依頼 ・児童が主体となった活動</p>	B	<p>○学校は、児童があいさつや時間を守る事が身に付くよう大人が率先垂範している。特に、あいさつについては、地域の方々の力を借りたあいさつ運動を継続して実施することができた。</p> <p>○学校は、正しい言葉遣いのできる児童を育てるために授業中等に呼名するときには「さん」をつけて名前を呼んでいる。また、ていねいな言葉遣いのできる児童を称賛したり、不適切な言葉遣い等があった場合には、粘り強く、継続した指導を行っている。</p> <p>◆学校は、登下校中等の学校外での挨拶も向上するよう指導をさらに工夫し、継続していく必要がある。</p>	B	<p>○教職員の普段の丁寧な言葉遣いの積み重ねが、児童への良い影響となっており、言葉遣いにもあらわれていると感じる。引き続き、児童の模範となる丁寧な言葉遣いをお願いする。</p> <p>○皮肉にもコロナ禍により、会話をせず集中して清掃をする環境が定着してきた。来年度以降、コロナの状況が変わっても引き続き実践できるようにしてほしい。</p> <p>○朝の見守りをされていて、以前よりあいさつをする児童が多くなったように思う。</p>
	11	<p>■東小は、時間を守る心が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆生活目標に取り上げ、重点的に指導するとともに率先垂範する。</p> <p>◆3内容6項目12の規律ある態度達成目標の取組を推進する。</p> <p>・日々の指導 ・授業開始、終了時刻の厳守 ・学習準備とチャイム着席の指導</p>	B	<p>◆学校は、丁寧な言葉遣いやもくもく清掃において、あらためて共通理解をし、今後も、粘り強い共通指導を継続していく必要がある。</p>	B	<p>◆あいさつ運動に参加しているが挨拶を返してくる児童が少なく感じる。学期はじめであることやコロナによる影響も多いと思うが、見守り隊の方々が続けたいと思えるよう、日々の学校生活の中で挨拶の大切さを伝えてほしい。</p> <p>◆あいさつに関しては、「あいさつをしなさい」と指導することも大切だが、まずは、教職員、保護者、地域の方々が、子供たちにあいさつする姿をみせることが大切だと考える。</p>
	12	<p>■東小は、正しい言葉をつかう心が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆生活目標に取り上げ、重点的に指導するとともに率先垂範する。</p> <p>◆3内容6項目12の規律ある態度達成目標の取組を推進する。</p> <p>◆場をわきまえたり、呼び捨てをしないで、ていねいな優しい言葉遣いで学習や生活ができるように指導する。</p> <p>・日常指導 ・授業での実践 ・道徳科の時間 ・学級指導 ・ほめる教育の推進 ・公的な場では「さん」づけを徹底</p>	B	<p>◆学校は、丁寧な言葉遣いやもくもく清掃において、あらためて共通理解をし、今後も、粘り強い共通指導を継続していく必要がある。</p>	B	
	13	<p>■東小は、もくもくと丁寧に掃除をする心が育つように指導を充実させている。</p>	<p>◆生活目標の年間目標に掲げ、もくもくと集中し、心をこめた掃除ができるように清掃時間の指導にあたる。</p> <p>・日常の巡回指導 ・振り返りの実施 ・師弟同行 ・放送による啓発</p>	B		B	

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
IV 健康・安全・体力向上	14	<p>■東小は、保健、歯科保健、体づくりなどの健康に関する教育を充実させている。</p>	<p>◆感染症の防止、むし歯予防、体力向上に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健学習</li> <li>・歯みがきタイム、フッ化物洗口の実施</li> <li>・学校保健委員会の開催</li> <li>・学校医等との連携</li> <li>・体育授業の工夫</li> </ul>	A	<p>○学校は、コロナ禍における「新しい学校生活様式」を徹底しつつ、これまでの健康教育の取組も持続し、本年度は、埼玉県学校歯科保健コンクール最優秀校を受賞することができた。</p> <p>○学校は、PTAの方にご協力をいただき、自転車交通安全教室や教職員対象の不審者対応訓練等を新規に実施する等、安全への取組を充実させることができた。</p>	A	<p>○学校と家庭が連携することで、埼玉県学校歯科保健コンクール最優秀校が受賞できたと思う。どちらがかけても成果は出ないため、引き続き連携を図り、良い成果を出してほしい。</p> <p>○食物アレルギーによる事故防止のため、保護者との連携を十分すぎるほど図ることで、事故を防ぎながらも対象児童がおいしい学校給食を食べられていることは喜ばしいことである。</p> <p>◆児童が自転車に乗っていて、転んだり、事故にあったりすることも考えられる。万が一の場合にも、少しでも、けがのリスクが少なくなるようヘルメットを被ることを推進してほしい。</p>
	15	<p>■東小は、生活安全・交通安全・災害安全の取組を充実させている。</p>	<p>◆けがや交通事故の防止、防災に関わる児童の意識とスキルを高められるようにする指導を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全学習 ・安全点検 ・通学路点検</li> <li>・避難訓練、防災訓練、消火訓練</li> <li>・不審者侵入への対応</li> <li>・心肺蘇生法体験学習</li> <li>・自転車交通安全教室</li> </ul>	A	<p>○学校は、食物アレルギーによる事故防止のために、対象児童の全保護者と管理職を含めた面談の機会を設定している。その上で、対象児童の保護者と毎月、給食の献立の確認を行ったり、毎日複数の教職員で給食の時間に確認を行ったりする等、組織的な対応を行っている。</p> <p>◆学校は、日常的に安全点検を実施したり、計画的に避難訓練を実施したりしてきた。今後は、さらに避難訓練での消火訓練や降下訓練等、放課後の過ごし方や交通安全への意識をより高めるための取組を実施していく必要がある。</p>	A	
	16	<p>■東小は、食に関する指導を充実させ食物アレルギーによる事故防止にも丁寧に対応している。</p>	<p>◆バランスのとれた食事の大切さを理解させ、実践できるようにする指導を充実するとともに、食物アレルギーによる事故防止の取組を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー対応マニュアルの実践</li> <li>・アレルギー対応児童の保護者面談</li> <li>・食育の充実</li> <li>・早寝 早起き 朝ご飯の啓発</li> </ul>	A	<p>◆学校は、児童の体力の向上や学習の保障を目指し、コロナ禍における体育授業の工夫や水泳学習、東小スポーツdayを実施した。今後も、コロナ禍の影響でより深刻になっている体力の二極化に係る方策として、さらなる体育授業の充実を図っていく必要がある。</p>	A	



領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 教育環境の整備	17	<p>■東小は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を進めている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月例安全点検及び臨時点検、点検結果への対応</li> <li>・小破修繕の実施 ・花壇の整備</li> <li>・市教育委員会と学校応援団、保護者との連携</li> </ul>	A	<p>○学校は、安全点検や校内巡視により、施設等の維持、修繕に努めている。また、PTAの方々のトイレ清掃、校庭の環境整備作業、学校応援団の協力による「緑のカーテン」や花壇の整備等の環境整備を支援していただいている。</p> <p>○学校は、図工作品の掲示場所を新設したり、展示場所を工夫したりする等、季節感や教育的な効果を意識し、計画的、意図的に児童の作品や掲示物を、掲示し整備している。</p>	A	<p>○学校の環境を維持するにあたり、PTAや学校応援団の協力を得ることは、環境整備の一環のみならず、児童へも良い影響を与えていると感じる。引き続き、地域・保護者とのつながりを保てるよう、環境整備を通じて関わりを持ってほしい。</p> <p>○児童が作成した作品が多く展示されていることで、児童の心も豊かになり来校者にも良い印象を与えている。</p>
	18	<p>■東小は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彩りや構成の考慮</li> <li>・あるべき所に必要な掲示</li> <li>・ユニバーサルデザインの考慮</li> <li>・児童作品の適切な取り扱い</li> </ul>	A	<p>◆学校は、常に学校が児童にとって安心して学べる場所であるように、自分たちでできる小破修繕を継続するとともに市教育委員会と連携し、計画的に大規模な修繕を行っていく必要がある。</p>	A	
領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	自己評価	○学校としての考え ◆課題・改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
VI 保護者・地域・関係機関との連携	19	<p>■東小は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>◆学校の方針や取組、教育活動の様子が伝わるようにホームページや便りさくら連絡網等とおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新</li> <li>・学校便りの充実</li> <li>・さくら連絡網の活用</li> </ul>	A	<p>○学校は、学校からの便りのさくら連絡網での配信に移行したことから、写真やカラーでの資料の提供も行うように工夫してきた。ホームページでは、見やすいサイトづくり、さくら連絡網で行事のリアル配信を行なっている。</p>	A	<p>○さくら連絡網の活用は、スムーズな情報の提供だけでなく、今まで見えなかった児童の姿を見ることができ、そういった情報提供を定期的に行う学校側の姿勢を保護者は評価していると感じる。今後も、保護者との友好な関係をさらに構築するため、定期的な情報発信をお願いしたい。</p>
	20	<p>■東小は、コミュニティ・スクールとして学校応援団（保護者や地域住民・関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら児童の登下校の安全確保や学習活動の充実教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会での熟議</li> <li>・PTA（おやじの会含む）、学校応援団等との連携</li> <li>・学校応援団感謝の会の工夫</li> </ul>	A	<p>○学校は、コロナ禍の中であるがPTA、学校応援団、おやじの会、学校開放委員会、青少年育成連合会等に協力をいただき、教育活動・教育環境の充実に取り組んだ。特に、今年度は、水泳学習や校庭の環境整備ボランティアに100名以上の方に協力をしていただいた。</p> <p>◆学校は、より情報を保護者や地域の方々にわかりやすく伝えていくために、現在あるツールを活用するなど工夫していく必要がある。</p>	A	